# 【肉用牛・一貫】(香川県三木町:(株)多田牧場)

〇多田牧場は、肉用牛(黒毛和種)の繁殖・肥育の一貫経営を行い、年間に肥育牛約25頭出荷。また、子牛を香川県家畜市場に年間約15頭出荷。

〇家族間での生産情報の共有が生産効率の向上に重要であることや将来の牛肉輸出を見据え、息子が中心となり、令和4年2月にJGAP認証を取得。

〇労働負担の軽減や受胎率を改善するため、令和3年度に発情発見装置を導入。また、令和4年度に分娩を知らせる分娩監視装置(牛温恵)を導入。

〇将来的に海外への牛肉輸出を目指すとともに、小売店を併設した焼肉店を開業するのが夢。

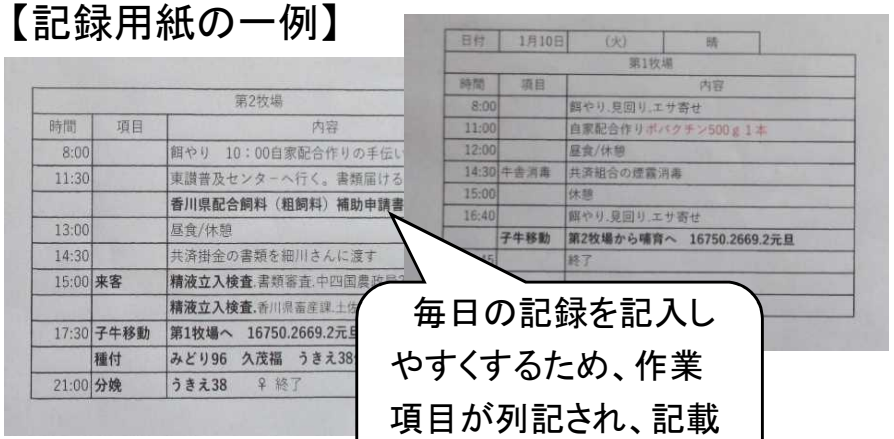
＜農場概要＞
所在地:香川県木田郡三木町
代表者:多田 英博
家族経営:代表者(育成、肥育)、妻(事務)
　　息子(管理全般、繁殖)
一貫経営:第1牧場(育成15頭、肥育45頭)、第2牧場(繁殖50頭)

＜経営の特徴＞
- 繁殖素牛は香川県や宮崎県の家畜市場から導入。
- 飼養コスト低減のため、高松市にある第2牧場では隣接する水田(60a)2ヵ所を借り上げ、繁殖牛を通年放牧。
- 稲わらは地域から調達し、約7割を国産利用。
- 令和2年に農地機構を通じて、WCS(2ha)の契約を結び、繁殖牛50頭と育成牛15頭に給与。
- 堆肥は米、野菜生産者へ販売。

＜取組の成果＞
- 生産記録を家族間で情報共有することで作業効率が向上。
- これまでの作業記録を活用することで、各時期ごとの適切な飼養計画を立てることが可能。
- 発情発見装置や個々の牛の発情と過去の人工授精のタイミングの記録を活用することで、受胎率が向上。




【記録用紙の一例】




毎日の記録を記入しやすくするため、作業項目が列記され、記載できるようにしている。